

平成 27 年 5 月 22 日

各 位

会社名 株式会社ウェッジホールディングス
代表者名 代表取締役社長兼 CEO 此下 竜矢
(コード 2388 東証 J A S D A Q 市場)
問合せ先 開示担当 横山 幸弘
(TEL 03 - 6225 - 2207)

GL の利益が過去最高を記録

当社の重要な子会社であります SET(タイ証券取引所) 上場のオートバイリース企業である Group Lease Public Company Limited(GL)は、2015 年度第1四半期に過去最高となる 110.24 百万バーツの純利益を達成いたしました。これは、前年同四半期の 900%以上にもなる驚くべき急上昇です。同社の大躍進の背景には、タイでの業績回復と、さらに重要な点として、カンボジアにおける事業の急激な増益という要因があります。

「四半期ベースで当社の過去最高実績を達成しました。今後はさらに業績が伸びていく見通しです」と、GL 会長兼最高経営責任者である此下益司氏は、GL の 2015 年度第1四半期決算発表後に述べました。連結純利益は前年同第1四半期の 10.76 百万バーツから 924%の上昇を示し、当年第1四半期は 110.24 百万バーツに達しました。

今回の過去最高業績に最も大きな影響を与えた要因は、カンボジアにおけるファイナンス事業の著しい成長です。2015 年度第1四半期の利益全体のうち、約 39 百万バーツが GL の海外事業から得られたものであり、この数値は 2014 年度第4四半期の海外事業利益から 77%増加しました。そして海外事業利益の大部分は、GL カンボジア事業が上げたものです。

GL 会長によると、同社のカンボジア事業はまだ発展の早期段階にあり、この先計り知れないほどの成長を遂げる可能性を持っているということです。GL は 2 年前にカンボジアに進出し、比較的未開拓で急成長中の市場である CLMV(カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム) への進出を掲げた同社の企業ロードマップの中で、重要なファーストステップとなる戦略を実施しました。

カンボジアでの成功に続き同社は現在、主要事業であるオートバイファイナンスに加えて、「ナノ」ファイナンスへと事業を拡げています。GL はラオス国立銀行である Bank of Lao P.D.R.より公式に認可を受け、今週ラオスで新規事業を開始しました。新しいビエンチャン本社の公式開設セレモニーは、5月 15 日に行われました。

「ラオスは他の東南アジア諸国と比較すると人口は少ないですが、通常の銀行サービスが行き届かないラオス全域の農村地域でリースサービスやナノファイナンスサービスを提供する予定の当社にとって、大きなビジネスチャンスを持つ国です」と、此下氏は語りました。また、カンボジアで展開している業績好調なビジネスモデルをラオス事業にも応用し、約6ヶ月から7ヵ月というより短い期間で損益分岐点まで到達する見込みである、とも加えました。

カンボジア事業の大幅な利益貢献の他に、不良債権の減少による増益もまた、第1四半期の利益拡大に貢献しました。連結ベースでの売上高は、2014 年度第1四半期の 353.90 百万バーツから、今年度第1四半期は 483.23 百万バーツとなり、129.33 百万バーツ(36.54%)の増加を示しました。この増加のうち、約 54.40 百万バーツをカンボジア事業が占めており、急速で継続的な業績成長に貢献しました。

同時に、連結ベースでの貸倒引当金は前年同四半期の 120.98 百万バーツから 82.33 百万バーツに減少しました。タイの経済回復による市場の改善が引当金減少の大きな要因となったことに加えて、カンボジアで質の高いポートフォリオが維持され、引当金が最小限に抑えられている点も大きく影響しています。

以 上